



参考文献の書き方

1. 参考文献とは？

…自分の論文のなかで引用した、あるいは参考にした、他人の文章や意見、データのこと。

参考文献は、
卒業論文やレポートの最後に
記載する必要があります。



2. なぜ参考文献が必要？

- 著者が自身の研究に必要な文献を十分に収集したことを示すため。
- 自分の主張が過去の研究に基づいていて、正当性があることを示すため。
- 読者が同じようなテーマに関する文献や研究動向を確認することができ、読者の文献調査の手助けとなるため。

もし参考文献がなかったら… **剽窃(ひょうせつ)**

引用した本や論文が正しく参考文献に記されていない場合、それは他人の主張を自分の主張として無断借用したとみなされ、論文の剽窃にあたります。論文執筆においては御法度なので、絶対にやらないようにしましょう。

3. どのように参考文献を書く？

参考文献の示し方はさまざまです。

(欧文文献の場合は言語によってルールが異なるようです)

今回はそのうちの一例をご紹介しますが、いろいろ調べてみて、書き方を検討してみてください。

ただし、書き方は必ず統一してください。

※先生が書き方を指定している場合は、そちらに従ってください。

3.1. 参考文献の書き方〈本の場合〉

【和書】 著者名 発表年『書籍名』、出版社

(例)富浜定吉 2013『宮古伊良部方言辞典』、沖縄タイムス社

(例)宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 2002『新日本語文法選書4 モダリティ』、くろしお出版

※著者が複数名いる場合は、本の掲載順に記す。

【訳書】 著者名(※姓、名の順) 発表年『書籍名』(訳者)、出版社

(例)バイビー・ジョーン 2019『言語はどのように変化するのか』(小川芳樹、柴崎礼士郎監訳)、開拓社

【洋書】 著者名(※姓、名の順). 発表年. *書籍名*. 出版地:出版社

(例)Bybee Joan. 2010. *Language, Usage and Cognition*. Cambridge : Cambridge University Press

3.2. 参考文献の書き方〈論文の場合〉

【和】 著者名 発表年「論文名」『書籍名』記載ページ、出版社

(例)狩俣繁久 2004「危機言語としての琉球語の文法研究の課題」『日本東洋文化論集』
pp.57-77、琉球大学法文学部

(例)古座暁子 1984「たずねる文」『教育国語』79 pp.2-13、むぎ書房

【欧】 著者名. 発表年. 論文名. *書籍名*,記載ページ. 出版地:出版社

(例)Edward L. Keenan and Bernard Comrie. 1977. Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar. *Linguistic Inquiry* 8, 63-99. Cambridge, MA, Massachusetts : The MIT Press

3.3. 参考文献の書き方

一人の著者の文献を複数あげる場合は、

著者名 発表年「論文タイトル」『書籍名』記載ページ、出版社
発表年「論文タイトル」『書籍名』記載ページ、出版社
発表年『書籍名』、出版社

のように書いても大丈夫です。

！注意！

著者名は**五十音順**で並べましょう！

～ まとめ ～

参考文献のまとめ作業を論文提出前に一気にやると、
文献の量も多くて大変なので、
論文を執筆しながら、こまめに参考文献リストもまとめる
ことをおすすめします。

自分の研究の正当性のためにも、読者の文献調査のためにも、
ミスのないように、正確な情報を書きましょう！

(人文社会科学研究科 M2)